

平成 31 年度事業報告書

テーマ：医療・介護・福祉ネットワークの連携を図り、心身機能の自立支援と安心ある暮らしの地域交流を目指す

サブテーマ：一人ひとりの認知症状を理解し、情報の共有とチーム力を強化する

（認知症対応型通所介護）デイサービスセンターいこい・ほほえみ

1. 認知症の病気を理解し、症状に合わせた個別ケアを提供する

職員間で情報を共有し、統一したケアを提供する

今年度はクラブ活動にて、持ち帰り用の 2 作品（行燈や壁掛け飾り、コースター）を完成できたことは、本人の活動意欲に繋がった。また、普段の様子を写真に撮り持ち帰って頂いたことは、個別の活動風景が見えると家族からも喜ばれた。

長谷川式スケールを定期的に計測できた。

2. 地域交流の継続

地域に、いこい・ほほえみの活動内容を認識してもらえるよう、取り組みを継続する

地域の福祉祭り「あい愛祭り」には活動風景のパネルを出展し、利用者が作成した「雑巾セット」は、11セット完売。「体験コーナー」のコースター作りでは、子供を中心に48名の参加があり、大盛況だった。

家族会を開催。6月に10家族、11月に6家族の参加があった。在宅介護のおける不安や悩みを座談会で話し合うことが、職員と家族の共有だけでなく、家族同士の繋がりも深める事ができた。

3. 利用者と家族の思いに寄り添い支援に努める

ケアマネとの情報交換を密にし、本人と家族が安心できる環境を提供する

ご家族の希望に合わせた送迎時間、利用時間の調整に努めた。また、独居や家族が日中不在の方に対しては、ケアマネと情報交換を密にし、居宅内での服薬の確認や、異常の早期発見などに努めた。

デイ利用中の体調の変化時は、迅速に家族とケアマネに連絡し、かかりつけ医の受診へと繋げた。